

社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（令和4年度実績）

産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
JR四国連携事業における「地域観光チャレンジ2022」	JR四国・西条市役所・成龍酒造・マルブン・養老酒造・塩屋別院・中津万象園・大洲市役所など	西村 勝志	地域観光チャレンジは、JR四国と四国4国立大学との連携事業として、地域活性化を根拠に置いた事業である。具体的には、学生自らが地域の諸問題をテーマに、その解決を図るツアーを企画したり、地域に埋没している様々な資源を発掘し、観光資源として活用するなど、学生らしい斬新なアイデアをもとにするものである。従来と異なるツアー企画・実施することで、地域経済の活性化や観光産業の振興に寄与することを狙っている。学生は、このプロジェクトを通して、地域ステークホルダーの生の声を聞き、彼らとともに企画・実施する中、傾聴力やコミュニケーション力を高め、互いに目的を共有しながら、ともに突き進む協働力を涵養する。
地域と体と財布にやさしいサブスクリプション	安城寺園芸組合	徐 祝旗	本プロジェクト研究は規格外の野菜等のサブスクリプションを大学生に提供する企画案である。大学生に対してアンケート調査で規格外の野菜のニーズがあることが確認できた。農業生産団体にヒアリングを行い、規格外野菜の提供可能な量を確認した。シミュレーションを行い安定な供給と利益が見込めるとわかった。また、ヒアリング調査から、現状や農業生産者の熱意が伝わったため、本提案は実現可能性が高く、フードロスや学生の野菜摂取不足を解消するという目的は達成できると考えられる。
地域観光チャレンジツアー	JR四国ほか	岡本 直之	JR四国との連携事業である「地域観光チャレンジツアー」の学内審査に2企画を提案し、1企画が通過し本選へと進んだ結果、銅賞を受賞した。2企画それぞれの概要は以下の通り。 ・「紙のまち探索ツアー～四国の中心で紙を学ぶ～」は、四国中央市を舞台に、紙の歴史から製造、活用までを学習することで紙産業の昔から今の姿を学ぶツアーを企画した。 ・「うみつと、やまつと、八幡浜」は、地域DMOである八幡浜のふるさと観光協会と連携し、農業と漁業が発展した理由と産業間のつながりを学ぶツアーを企画した。
愛媛大学生の産業・企業に関するイメージ調査	ジョブカフェ愛work（愛媛県若年者就職支援センター）	曾我 亘由	新規大卒就職者の離職状況については3年以内に約30%が離職するという現状が続いている。また、離職の理由については、労働条件以外にも、人間関係や、入社前に想定した仕事のイメージが実際と異なるといった理由が指摘されている。このような問題意識のもと、大学生は企業や業界に対してどのようなイメージを抱いているか、また、どのような過程を経てそのようなイメージが形成されるかについて、行動経済学的視点から調査した。
転売とその対策 ～メーカー視点からみた転売～	—	崔 英靖	転売にマイナスイメージを持っている人は多いが、経済に対してはどのような影響を及ぼしているのか、そしてどのように向き合っていくべきなのかを、実際の事例とミクロ経済学の考え方を元にして検討した。 その結果、単純な転売対策ではなく、消費者の需要に合わせた価格設定や販売方法を企業が提案・実践することで、消費者の需要を満たしつつ企業の利益増加が実現し、結果として転売発生を抑止にもつながると結論づけた。
パーソナリティ論を活用した社内コミュニケーション	愛媛ニュービジネス協議会	川口 和仁	個人のパーソナリティによってコミュニケーションに対する意識がどのくらい異なるのかを考察する。パーソナリティ分析に関しては、アンケート調査を実施し、Big Five理論に基づく因子分析を行う。上記の分析結果を踏まえ、個々人のパーソナリティに応じた社内コミュニケーションの取り方や接し方を提案する
よー、そこの若い愛媛のお酒呑んでくれ～若者に向けた愛媛県の日本酒の需要拡大策の提案～	愛媛県酒造組合、石鎚酒造株式会社、協和酒造株式会社	谷本 貴之	本プロジェクトでは、愛媛県内外の大学生へのアンケート調査を実施して、若者の日本酒の飲用実態等を同時に、酒造メーカー等へのヒアリング調査や、果物を採用した日本酒カクテルの試作を通じて、若者に向けた愛媛県の日本酒の需要拡大策を提案した。
『えひめこうち食べる通信』の制作	株式会社セキ	山口 信夫	株式会社セキと協働で、食材付き雑誌『えひめこうち食べる通信』の企画・取材・編集作業に携わっています。取材先の選定や、取材時の質問項目、取材後の情報整理、紙面に掲載する情報の取捨選択、場合によっては発送作業まで、セキ側の担当者さまと一緒に考えながら、進めています。
学生の個人研究のため、ゼミ全体としてのプロジェクトは実施していない。	—	橘 恵昭	学生の個人研究のため、ゼミ全体としてのプロジェクトは実施していない。

産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
未利用魚の新たな活用法の模索	—	松原 孝博	一般的に食べられないことがない未利用魚や身が少なく、骨の多い小魚を対象とし、新たな用途を確立させ、SDGsに取り組むことを目的として煮干しを作り、出汁を抽出する。そして、カクテイワシの出汁をベースとし、それぞれの出汁はどのような差異があるのかを幾つかの項目に分けてそれぞれ評価する。最後に、最も評価が高い魚の出汁でうどんを作り、新たな活用法に成り得るかを判断する。
塩分濃度によるカキの味の変化	—	松原 孝博	カキ出荷時の殺菌海水による浄化作業時の海水の塩分濃度を調整することで、美味しいカキの出荷が可能になると考え、どの塩分濃度でカキがおいしくなるのかを検討した。6グループの塩分濃度調整海水を設けて一日浸漬し、それらのカキを官能評価（5人）によって評価した。評価項目は旨味、塩味、甘味、酸味、苦味、好みの6項目で-4から4点で評価し、それらの結果をデータ化してより美味しいカキの特徴を考察した。
宅配便による小規模の活魚輸送のための研究	—	松原 孝博	宅配便で小規模の活魚を輸送する条件下での魚の生存性について調査することを目的とする。塩分濃度を下げバクテリアの増殖を抑えることで、水質の悪化を抑制する。また、可能な限り水温を低温にすることで、酸素消費量を抑える。本プロジェクトでは、魚種ごとの浸透圧耐性、低温分への適応能力、生存可能な下限水温を調べるために3つの実験を行った。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
食品用耐油紙の作製	—	深堀 秀史	フッ素は環境への負荷が懸念されていることから、環境負荷の少ないフッ素フリー耐油剤であるポリビニルアルコールを用いて紙表面に塗工し耐油紙を作製した。はつ油度試験：キット法により耐油度を評価した。また、ポリビニルアルコールの皮膜が原紙表面に多く残るよう、原紙をカレンダー処理し耐油度の向上を図った。
茶殻配合紙（茶香紙）の作製～茶殻の粉砕度合いと抗菌性の検討～	—	深堀 秀史	廃棄されている茶殻を有効活用することを目的とし、茶殻を紙に抄き込んだ抗菌性のある茶香紙を作製した。抗菌性と、茶殻の定着度のバランスに着目し、配合する茶葉の粉砕度合いを調整した。抗菌試験を行い、バルブのみの手すき紙と比較した結果、茶香紙には抗菌性があることがわかった。抗菌性と定着度のバランス、茶殻が紙に均一に分散しているか、剥離しないかなど総合的な結果から、最適な粉砕度合いを検討した。
猫がおとなしくなる紙？～マタタビペーパー～	—	伊藤 弘和	猫を陶酔させるマタタビの新たな活用方法として、従来のマタタビ製品が抱える問題を解決しつつ、前例のないマタタビペーパーを開発することで地域の紙産業に貢献することを目的とする。シート化するにあたって、紙中に残存する成分と、紙としての強度を保ちつつ実際に猫に投与した。定量的に評価するために紙物性試験と残存する成分量を数値で表すガスクロマトグラフィーを用い、評価を行った。最後に、今後の課題と展望を考察した。
ドローン係留制御装置の開発	—	高橋 学 山本 智規	ドローンの飛行に関する航空法施行規則の改正により、半径 30m 以内での牽引付き飛行が可能となった。これにより、ドローンの飛行に追従する牽引装置が求められる。本プロジェクトでは、送り出しと巻き取り機能を備えた牽引装置を開発するために、スピニングリール機構を採用し、プロトタイプの牽引装置を試作した。また、糸の張力を検知し、モーターによるリールの回転制御システムを考えた。
物干し用ユニバーサルハンガーの開発	—	高橋 学 山本 智規 小長谷 圭志	日々の生活で、洗濯物を「干す・取り込む」工程は一定の時間を要する。従来のピンチハンガーはピンチ同士が絡まり、日々の精神的な負担を生じる。本研究では、高齢者や身障者でも容易に利用できるユニバーサルハンガーを開発する。衣類をスライドして挟むバインドタイプと、ワークを位置決め・固定するための機械要素部品であるブランジャータイプのハンガーを提案する。機能性、コスト、簡易な機構などを検討し試作品を作製した。
GPSを用いたサッカーボールの位置取得システム	—	山本 智規	スポーツ分野のDXが進んできており、競技者のパフォーマンスをデータ化することが求められている。本プロジェクトでは、GPSデバイスを内蔵したサッカーボールを開発し、ボールの動きをデータ化することを目的とする。GPSデバイスを内蔵するためには、プレーの際にデバイスが破損しないことが重要となる。そこで、ボール内で位置情報を検出するGPSデバイスシステムの構築と、GPSデバイスの破損を防ぐ構造体の開発を目指す。
非破壊による腐敗芋の選別技術の開発	—	小長谷 圭志	目視では判断されにくい乾腐病持ちの里芋を、非破壊で選別できる技術の開発を目的とする。異なる波長の紫外線光源を使用した蛍光画像を撮影し、さらに比較検討のため里芋の断面を撮影した上で、内部の乾腐病の影響が外観に及ぼす影響について検討する。最終的には外観を撮影しただけで正常芋なのか腐敗芋なのかを選別できることを目標とする。
営業スタイルに適した販売管理システム	—	山本 智規	現在ディーラー業をしており、受注を電話やFAX対応、見積もりなどをエクセルにて全て手打ちで行なっている。現状を改善し、事務的業務の効率化を図るために受注管理システムを作成することを目的とする。さらに、受注管理システムに社内システムを連携させることにより、顧客の詳細データを明確化できると考える。導入後、実際に効率化されたかを数値化し、改善点を洗い出す。
ARマーカーを使ったドローンの自動制御	—	山本 智規	本研究では自動化・低コストといった観点から、2次元コードを用いた、ドローンが自律して飛行できるシステムを開発する。さらにドローンによる作物の生育状態のセンシング方法を検討し、愛媛県東温市での圃場実験等に取り組む。ドローンを活用したスマート農業構築の基幹技術を研究し、農業従事者の高齢化・人手不足といった諸問題の解決を目指す。
マシンビジョン技術によるアボカドの食べ頃推定	—	小長谷 圭志	松山アボカドとして市のブランドにも認定された国産アボカドの主要な品種は、熟度によって色に変化がないため食べ頃の判断基準が難しい。そこで、本プロジェクトではカラー画像の光沢からアボカドのおおよその熟度を判定するための判定法を検討する。アボカドの撮影に適した撮影装置を試作し、得られた画像をMATLABを用いて解析する。そして、光沢と熟度の関連を明らかにし、食べ頃の判断基準とする。この技術はアボカドを取り扱う輸入業者や小売業者等による品質管理・評価に有効活用が期待できる。
養殖魚の旋回により発生した水流の計測	—	山本 智則	養殖魚の生育環境整備の一環として、本プロジェクトでは、養殖魚の旋回流の法線方向流速の計測を試みた。流速を計測することで、養殖魚の運動量との相対関係として、給餌間隔・量・時間の最適化が図られる可能性がある。水流計はいかだの4箇所に設置し、海洋流を含む流れから法線流速のみを抽出する。また水流計は磁気エンコーダーモジュールを用いた安価なシステムで構築した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
ペットボトルの家庭用カッティングマシンの開発	—	高橋 学 山本 智規	2L以下のペットボトルを破砕し体積を縮小することを目的とする。現在のペットボトルリサイクルは回収プレスし運搬の流れで行われるが、家庭に破砕機を置くことにより、それらの工程を省きSDGsに貢献しながら自身のごみ捨ても楽にできる。機構案から材質まで考察しプロダクトデザインする。その後実際に使用できるまで制作に取り組む。
養殖魚の自動箱詰め機械の開発	—	山本 智規	養殖業において出荷時の活魚の選別・箱詰・重量計測の一連の作業は、作業者の肉体的負担が大きい。本プロジェクトでは、箱詰め作業に着目し、自動箱詰め装置の開発に取り組んだ。箱詰作業は1箱当たり8匹の活魚を頭と尾を互い違いに詰める必要がある。そのため、左右の流路に魚を流し機械の中に並べ、自動で出荷用の箱に落下する機構を考案し、試作を行った。

環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
モニタリングサイト1000里地調査における相観植生図の作成	愛媛環境調査会	渡邊 敬逸	東温市上林地区で行われるモニタリングサイト1000里地調査に参加し、同地域の里地山調査の一部である相観植生図をGISによる元図作成、現地調査、調査結果のデータ作成を通じて作成した。
野村復興ハーブティーの開発	西予市野村支所復興支援室	松村 暢彦	西日本豪雨の被災地、西予市野村町で復興まちづくりの支援として野村の自家製のお茶文化に根差したハーブティーを開発した。西予市内の茶園で摘んだ茶葉と町内で栽培したハーブを使用して4種類のブレンドティーを作成。それぞれのハーブの花言葉と復興の目指すものとの一致から、野村町の復興への物語を記した紙とハーブティーを野村の街を想い浮かべるデザインの箱に詰めた。試作品をのむら復興まちづくりデザインワークショップでふるまったら好評を得たことから、商品化に向けて検討を進めている。
愛媛大学マルチスピーシーズ・キャンパス	城北キャンパスのいきもの（動植物・教職員・学生を含む）	ルプレヒト・クリストフ	「全てのいきものがともに創る、全てのいきものが共生できる」持続可能なキャンパスづくりのプロジェクトの一環で、「学生と鳥」アンケート調査・キャンパスの木の地図化・「木に伝えたいこと」調査・愛犬いきもの図鑑フォトコンテストの活動を通じてキャンパス内のいきもの関係を探った。
For the Future 海洋プラスチックごみの調査とUNEP Instagram運用	西予市	榑原 正幸	UNEPの活動には、SDGsの課題に関わるものが多いものの、日本ではUNEPの活動に関してあまり知られていない。そこで、「日本UNEP協会」と協働で、SNSを活用してUNEPの活動に関する情報を発信した。また、海洋プラスチックごみの調査を行い、その結果も発信した。
ブルーカーボンの実装に向けた地域共創と環境教育	—	入江 賀子	愛南町でブルーカーボンの測定作業と実装戦略を検討した。また、他地域でも実装可能性について検討した。
スーパーの環境プロジェクトのデザイン	—	入江 賀子	スーパーで実施する新しい環境・SDGsの取り組みについて検討している。
海から生まれたアクセサリー	—	入江 賀子	海洋プラスチックゴミ問題の啓発を目的として、松山近隣の海辺における海洋プラスチックゴミの現地調査と収集を実施するとともに、海洋プラスチックゴミからアクセサリーを作成し、その支払意欲額についてアンケート調査から明らかにした。
個別避難所運営マニュアル作成の実践	—	二神 透	県内市町村においてDIG等の防災ワークショップ手法を用いて避難所運営マニュアルの試作を行った。
災害復興下における生活史調査	愛媛県宇和島市	羽鳥 剛史	平成30年豪雨の被災地の一つである宇和島市吉田町において被災された住民へのライフヒストリー調査から災害復興下における支援ニーズのあり方を明らかにした。
iRIC (Morpho2DH) を用いた斜面崩壊シミュレーションによる危険度評価	—	ネトラ・プラカシュ・バンダリ	広島県呉市を事例としてiRIC (Morpho2DH) を用いた斜面崩壊シミュレーションによる土砂災害想定と既存のハザードマップの土砂災害想定とを比較することにより、より精緻な土砂災害想定に基づくハザードマップ作成の可能性を検討した。
重信川サイクリングロードの世代別ルートの作成と提案	愛媛県	片岡 由香	重信川サイクリングロードの普及と活用を目的として世代別の嗜好や体力に配慮したルートの作成と提案を行った。

地域資源マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛県等との連携による「集落活性化意識醸成支援事業」の取り組み	えひめ地域活力創造センター、四国中央市関川地区、久万高原町柳井川地区、大洲市長浜地区、愛媛県地域政策課	笠松 浩樹 竹島 久美子	過疎・高齢化が進む地区で地域づくりへの意識づけのため、3地区でアンケートや住民との検討を行い、次年度の計画づくりを行った。関川では、子どもの遊び場づくり、里芋ラーメンの開発、基地建設を行う。柳井川地区では、中学校寮を改築して開業する宿泊施設の支援、準住民制度を進める。長浜町では、長浜高校の水族館と連携し、商店街のガラス戸にアート作品を展示する。これらは次年度以降に展開する予定である。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛県伊方町取地区における暮らし・産業・地域活動	伊方町	淡野 寧彦	伊方町においては、近年、地域の魅力発信に向けて佐田岬はなはなの整備や「佐田岬ワンダービュー」動画コンペといった取り組みが展開されている。他方で、本来の地域住民の生活の場に対する注目は低く、地域内外の交流を多面的に推し進める重要性が指摘できる。この観点から、旧三崎町の名取集落を対象とした生活実態調査を実施し、地域住民の日常生活や主たる産業である柑橘農業の特徴、地区内および地域間での様々な地域活動の状況に関して現地調査を行った。本成果については、現地調査に協力を得たステークホルダーと共有し、今後、より広く情報発信を進めることで、地域還元を進める予定である。
大洲市における農業・教育・文化観光の実態調査	大洲市	寺谷 亮司	大洲市にて、農業・教育・文化観光の3つのテーマから調査した。研究課題として、①大洲盆地特有の周辺腹緩斜面集落である恋木地区の歴史や農業、水利に関する調査、②地域存続のための重要性が指摘されている大洲市の中学校における地域学習・コミュニティスクール、③近年観光まちづくりとして評価の高い脇南地区における古民家のリニューアル事業による空き家の活性化と城下町の再編について設定し、新谷地区関係者、及び一広志氏と連携して現地調査、聞き取り調査を実施した。本成果については、2月に報告書を刊行した。このうち、古民家リニューアル事業の研究結果については、気軽にコミュニティカレッジin内子にて口頭発表、及び愛媛地理学会にてポスター発表をおこなった。
土居通康作・現代絵巻による農村景観と生活文化の模元 —内子町小田地区大平を事例に—	内子町	井口 祥	昭和7年生まれ土居通康氏が記憶を元に制作した現代絵巻8点をもとに、昭和10年代～昭和22年頃までの小田地区大平の農村景観と生活文化に関する復元調査を実施した（現代絵巻：近代から高度経済成長期までの農村・農業の様子を描いた絵等から構成される農業資料）。現地では、小田自治センター・教育委員会と連携し、土居家の間取りや周辺の家屋調査、親類への聞き取りを基にした家系図の作成や家族写真の収集、制作者と同年代生まれの高齢者約20名の聞き書き記録の作成、小田自治センターや旧郷土資料館に集められた古写真の収集・整理、大平地区の園場調査、旧平野小学校・大平三島神社の調査等を実施した。その成果は、気軽にコミュニティカレッジin内子にて発表をおこなった。
砥部焼歴史遺産の可能性を探る—窯跡調査を通して—	砥部町	榎林 啓介	愛媛県砥部町における砥部焼歴史遺産と地域づくりに関わるプロジェクトである。砥部町は江戸時代中期に創業し今も操業し続ける砥部焼の窯業地であり、その砥部町には実は多くの砥部焼の歴史遺産がある。窯跡などを踏査することで遺跡の存在を明らかにするために、令和4年度は砥部町の五本松、外山、北川毛、千足の各市区を選び、これら地域を悉皆的に踏査し、窯跡の存否や現状を記録した。また、「砥部焼遺産と将来についての座談会」を令和4年5月と令和5年2月に砥部で行い、踏査成果や地域の方々の窯業に関わる事柄（記憶）を相互に共有する場、そして砥部焼の遺跡をいかに残していくのか意見交換する場となった。
遺跡保存のための史跡指定と指定後のあり方—上黒岩岩陰遺跡を中心に—	久万高原町	村上 恭通	遺跡が地域社会で愛され、活用される前提として、その遺跡を確実に遺す必要があり、その唯一の策として史跡指定がある。まず県内で近年、弓削島荘遺跡が国史跡指定された上島町において指定化のプロセスと問題点について学んだ。その後、久万高原町上黒岩岩陰遺跡の国史跡指定とその現状を踏査して確認し、また町教育委員会、美川小・中学校関係者や地域住民に聞き取り調査をすることによって、町民にとっての上黒岩遺跡の存在感を理解し、また地域社会にとって遺跡が価値あるものであり続けるための方策について考察することができた。
愛媛県西条市における陣屋建築の文化資源的特色	西条市	佐藤 大規	愛媛県西条市にかつて存した西条陣屋・小松陣屋に関する建造物について現地調査（実測図作成・細部意匠・痕跡調査・年代判定・写真撮影・聞き取り）・文献調査などに基づき、それらが持つ文化資源的特色の考察を行った。調査対象は西条陣屋の大手門（現、西条高校正門）・北御門・荒木満福寺山門・大通寺山門、小松陣屋の仏心寺門・徳蔵寺山門・覚法寺山門の7棟である。調査成果をもとに各建造物の細部意匠や規模の比較や陣屋間の比較を通じて、それぞれの建造物の特色を明らかにした。さらに陣屋の建造物が持つ文化資源的特色を検討した。なお、実測図をもとにCAD製図を行い、写真とともに現状を記録することができ、将来的な修理など保存活動に役立つ資料を作成することができた。
eスポーツモデル施設活動成果検証事業プロジェクト	観光スポーツ文化地域スポーツ課	山中 亮	県内13のeスポーツモデル施設が、継続的な活動を実施した結果、障がい者が日常生活を過ごす上で、目標や課題に取り組む姿勢の改善があったという報告のほか、手指の巧緻性の向上、注意機能の改善などの成果が出ている。これらのeスポーツ実施結果のほか、eスポーツのモデル施設の取組みについて、施設の支援者・職員とは異なった視点から観察・分析することで、eスポーツの新たな可能性を探るため、モデル施設のeスポーツ活動調査研究・成果検証を行った。
大保木地区の高齢者に対するオンライン及び対面のハイブリッド体操教室	西条市 NPO法人えひめヘルスプロモーション研究会	高橋 敏明	石鎚山麓の限界集落である大保木地区（全住民67名）の高齢者（11名）に対し、オンラインを主体とした体操教室を、令和4年6月～令和5年1月までに計20回実施した。初回と最終回では、現地での運動機能評価とアンケート調査を実施し検討した結果、バランス能力の向上が見られ、外部の人との関わりが増加し、大学生の活動により地域活性化の一助に繋がることが推察された。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
<p>双海MOTTOツナガル・プロジェクト～シニア・ハイブリッド型健康運動教室の実践～</p>	<p>伊予市（長寿介護課）</p>	<p>牛山 眞貴子</p>	<p>伊予市双海地区のシニアを対象に、①持続可能な運動教室を提供する ②気持ちが「ツナガル」サービスを提供する ③より多くのシニアに④シニアの体感元気度を高める ⑤可視化する 以上を目的に、令和4年11月～令和5年2月、上灘/下灘とトライアル地区（本谷・日喰）でハイブリッド型健康運動教室を実施した。技能の向上と歩数の増加など良好な傾向が見られる一方で、リモート促進のためには田舎の通信事業の遅れによる通信格差の是正と地域の特徴を活かしてオリジナル・サービスの重要性が明らかになった。* 令和4年度愛媛大学プロジェクトEに採択</p>
<p>高齢者に向けた身体活動促進アプローチ</p>	<p>東温市健康推進課 公益社団法人松山市シルバー人材センター</p>	<p>山本 直史</p>	<p>1. 東温市が行う運動指導事業「筋力アップ教室」の参加者を対象に、教室終了後も各自で筋力トレーニングを継続的に実施してもらうことを目標として、運動プログラム・資料の作成、および実技指導などの取り組みを実施した。 2. 松山市シルバー人材センターの会員を対象に、「労災予防のための筋力向上」をテーマとして、入会セミナー時における「簡易筋力測定・運動指導」を企画して実施した。</p>